



## 卒業式が行われました

### 学校長式辞

日差しの温かさと柔らかな風から、ここあいの里にも春の息吹が感じられる季節となりました。

今日の佳き日に本校PTA会長 齋藤 圭介様、パートナー校である小学校の校長先生、並びに本校学校評議員の皆様、地域の皆様の御臨席を賜り、そして御家族の皆様に見守られながら、札幌市立あいの里東中学校、第31回卒業証書授与式を挙げていきますことを、心から嬉しく思います。

258名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、数々の思い出を胸に、3年間をともに過ごした仲間たちと共に、本校を巣立っていかようとしています。偶然が積み重なって一緒に学校生活を送ることになった仲間たちとたくさん話し、笑い、喜びや時には辛さを分かち合い、様々な経験を通して人として成長してきたと思います。

そして、いま、その証となる卒業証書を一人一人に手渡しました。この卒業証書は、皆さんが義務教育を修了したことを示すとともに、社会に出て活躍するための準備が整ったことを認める、きわめて重みのあるものです。大切にしてほしいと思います。

また、この卒業証書は、未来へのパスポートでもあるのです。

そのパスポートを手に、皆さんが旅立つ未来は、今の大人が生きた時代とは比べ物にならない速さで、社会の姿は変わっていくことが予想されます。例えば、人口減少社会がそのひとつです。働いて物を生産したり、サービスを提供したりする人数が減少するだけでなく、物を購入するなど消費する人数も減少していきます。このように日本経済が縮小していく中で、少子化や高齢化も進んでいくものと思われます。他にもAIが進化、普及していくことにより、人間がAIに取って代わられる職業も出てくるかも知れません。もちろん効率化が進むなど人間社会に良い影響を与えてくれることもあるでしょう。

このような変化が大きい時代に皆さんは生きていくこととなります。与えられたものをそのまま素早く記憶し、正確に表現するだけでは対応しきれないかも知れません。学校教育でも「課題探究的な学習」「個別最適な学び」などを大切にしているのがその表れであり、皆さんがこれからも生涯にわたって主体的に学び続けていくことが、社会の変化に対応していく力を身に付けることにつながると思います。

保護者の皆様、お子様の御卒業、あらためまして心よりお祝い申し上げます。お子様がこの世に生誕した日から今日に至るまで、様々なことがあったことと思います。夜中に急な発熱で右往左往したことや、初めて言葉を口にしたり、歩いたりした日のこと。小学校に入学して小さな身体に大きなカバンを背負って登校する後ろ姿を見守ったあの頃。中学生になるころには、家庭内での言葉も少なくなり、思春期真っ盛りの我が子を見守る日々。

義務教育の修了に当たる今日まで、お子様に寄り添いつつ、時には子育てに迷われたこともあったことと思います。私たち教職員の伴走は、本日で区切りとなりますが、保護者の皆様におかれましては、これからもお子様の良き理解者、人生の先輩として導いていただきたいと思っております。

結びとなりますが、本校入学から今日までの3年間にわたりまして、本校にお寄せいただいた温かい御支援と御協力に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、巣立ちの時が来ました。あいの里東中学校の卒業生としての自信と誇りを胸に、素晴らしい未来を自らの手で切り拓いてください。

皆さんの前途に拓ける夢ある未来に期待し、私の式辞といたします。

令和8年3月13日  
札幌市立あいの里東中学校長 廣田 豊

### 祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。PTA会長として、この素晴らしい日を皆さんと共に迎えられることを大変嬉しく思います。

皆さんが入学した3年前の春は、新型コロナウイルスの流行がやっと終わりの兆しを見せ始めたタイミングでした。これから始まる中学校生活に大きな希望を抱く一方で、3年振りのマスクなしの生活には緊張もあったかもしれません。それからの3年間は、どのような中学校生活でしたでしょうか。苦しかったこと、悔しかったこと、思い通りに行かなかったこともあったでしょう。それ以上に楽しかったこともたくさんあったでしょう。そのすべての経験が皆さんを大きく成長させてくれました。

卒業生の皆さんは、4月から新しい道へと進んでいきます。これまでの義務教育では感じたことのないような困難に遭遇したり、悩んだりすることもあるでしょう。そんな時は、友達、親、学校の先生、誰かを頼ってください。一人で乗り越える必要はありません。あなたを理解し、助けてくれる人が必ずいます。

そして、いつまでも挑戦を続ける人であってください。わたしたちの世代ではできなかったことを実現するのは皆さんです。今は治せない病気を治したり、たどり着けない宇宙の果てにたどり着いたり、魔法のような技術で不可能を可能にするのは皆さんです。一人でできないことはたくさんありますが、周りの人たちの知恵を借りて、力を借りて、挑戦を続けてください。わたしたち大人は、挑戦する皆さんの味方です。そして、挑戦する皆さんは、わたしたち大人の夢です。何度失敗しても挑戦を続ける人になってください。

さて、ご臨席くださいました保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。義務教育が終了し、子育ても一段落となりますが、これからも子供たちの挑戦を一番そばで応援する存在であれたらと思います。

廣田校長先生をはじめ、あいの里東中学校の教職員の皆様、3年間、子供たちを愛情と情熱を持って導いてくださったこと、心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

最後となりますが、卒業生の皆さんの今後の健やかな成長と益々の活躍を願いつつ、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和8年3月13日  
札幌市立あいの里東中学校  
父母と先生の会 会長

## 送辞

厳しい寒さを乗り越え、やわらかな春の光が差し込むこの佳き日、3年間という大きな物語を締めくくる、輝かしい卒業の日を迎えられました。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

振り返れば、この2年間、先輩方はいつも私たちの憧れでした。

創力祭では、手の込んだステージ発表や展示作品、装飾や映像発表に心を打たれました。

特に、オープニングは、最高学年の貫禄や豊富な経験が感じられ、その堂々とした姿は、今も鮮明に焼き付いています。

合唱交流会での、3年間の絆が感じられるきれいなハーモニーや圧巻の歌声は、会場を深い感動で包みました。その表情や姿からは、仲間を信じる強さや最後までやり抜く覚悟が伝わってきました。先輩方は、言葉以上に背中で私たちに大切なことを教えてくださいました。

こうした一つひとつの姿を通して、私たちは3年生という存在の大きさを改めて実感しました。

先輩方がこうして築き上げてきた「あい中の伝統」という名のバトンは、私たちにとって、正直に言えば簡単には背負いきれないほど重いものでした。

しかし、いざ引き継ぐ立場になって気づいたことがあります。このバトンの重みこそが、先輩方が費やした時間と努力の証だったのだと。

先輩方の笑顔や仲間を思う温かさに支えられ、私たちはここまで歩んできてことができました。心から感謝申し上げます。

これからは私たちが、後輩たちに「重すぎる」と言われるくらい大きな財産を築いていけるよう、精一杯努力してまいります。

この先、卒業生の皆様が進まれる道は、あいの里の雪解け道のように、ときには足元が不安定なこともあるかもしれません。しかし、この3年間ともに学び、ともに笑い、困難も一緒に乗り越えてきた絆や思い出は、何事にも代えがたい糧になっていることでしょう。時折、この学び舎で過ごした日々や私たち後輩を思い出しながら、それぞれの場所で輝かしい未来を切り開いていってください。

最後になりますが、卒業生の皆様の未来が、雲一つない快晴のように晴れ渡るものであることを心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。

令和8年3月13日

在校生代表



## 答辞

ひと雨ごとに春を感じる季節となりました。今日、私たちは卒業の日を迎えます。本日は、このような素晴らしい式を挙げて頂いたこと、心よりお礼申し上げます。

私たちが、少し大きく感じる制服に身を包み、中学校生活への期待と不安を抱きながら入学したあの日から、3年の月日が経ちました。この3年という時間は、私たちに数えきれないほどの思い出をくれました。

馴染みのない校舎に、何度も迷った1年生。初めての行事を経験するたびに、先輩方の偉大さを実感し、1年後、2年後はこうなりたいと、その大きな背中を必死で追いかけていました。

先輩としての自覚が芽生え始めた2年生。よりよいあい中を作り上げるべく、行事や委員会・局会・生徒会活動など、様々なことに試行錯誤しながらも懸命に取り組みました。

何気ない日常すらも大切に過ごした3年生。すべての瞬間が最後であると感じ、寂しくも奮い立つ思いで一日一日を過ごしていました。これまでにないほどの盛り上がりを見せた体育大会。移動中のバスでも、絶えず笑いが弾いていた修学旅行。学級の垣根を越えて作り上げた、集大成ともいえる創力祭。それぞれのクラスで一致団結し、より高い完成度を目指した合唱交流会。休み時間や給食時間、授業中や登下校の時間でさえも、特別なひとときに感じられました。

部活動では、放課後の一瞬一瞬を全力で駆け抜けました。どんなに頑張っても報われない悔しさに悩みながらも諦めずに頑張り続けたからこそ味わえた喜びや楽しさは、何物にも代えがたいものでした。部の一員として活動できて本当に幸せだったと噛み締めています。今日この場に立つ仲間たちもきっと、同じ気持ちではないでしょうか。

こうした思い出の一つ一つには、かけがえのない仲間の存在と、多くの人の支えがありました。

先生方には、教わった勉強以上に、人として大切なことを学びました。答えのない問いに悩み、もがいていた私たちにかけてくださった何気ない一言に、どれほど救われたか分かりません。すぐには受け止められなかったときもありましたが、最後まで見捨てず信じてくださり、本当にありがとうございました。

15年間、私たちを育ててくれた保護者の皆様。いつも傍にいてくれる身近な存在だからこそつい甘えてしまい、素直になれずに心配かけてばかりだったと思います。それでも私たちの一番近くで、私たちを一番に想って見守り続けてくれた皆様がいたから、これほど豊かな思い出を刻むことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

本日ご出席くださいましたご来賓の皆様、並びに地域の皆様。皆様が陰ながら支えてくださったからこそ、私たちは安心して学校生活を送ることができました。深く感謝申し上げます。

そして、在校生の皆さん。私たちのために、素敵な卒業証書入れをありがとうございます。私たちを先輩と慕ってくれたこと、頼ってくれたこと、本当に嬉しかったです。これからの中学校生活もどうか全力で、大切に過ごしてください。ずっと応援しています。

最後に、このあい中での全ての時間を共にした258名の仲間へ。時にぶつかり、時に励まし合いながら走り続けた1分1秒が、今の私を作っています。鮮やかな虹のように様々な個性が集まり、この学年として過ごした3年間は、私の人生において二度と得ることのできない最高の経験となりました。一緒に卒業できることを、心から誇りに思います。

暖かく優しい、皆さまの数えきれないほどの愛情に恵まれた私たちは、この上ない幸せ者です。改めて最大の感謝を伝えさせてください。

9年間の義務教育を終え、今日という日を新たな出発の日として、私たちはそれぞれの道へと進んでいきます。この3年間で学んだこと、出会った仲間、支えてくださった方々への感謝を胸に、どんな困難にも負けずに進んでいきます。

最後に、私たちの学校生活に関わってくださった全ての方のご多幸とご健勝を心よりお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和8年3月13日

卒業生代表